

小論文（美術領域専攻）

【出題の意図】

設問1（配点 30 点）

現在、美術作品を鑑賞する場面は、作品と自分が静謐に一对一で向き合う従来のかたちと、他者と語らいながら多様な視点や考え、感じ方を交錯させつつ作品のとらえ方を深めていくかたちとの二種類がある。これらは、いずれかがより優れた価値を持つというものではなく、価値の重心が移動しているだけである。（といった内容を 100～150 字でまとめていけば可）

設問2（配点 70 点）

旧学習指導要領（平成 20 年改訂）の要点の一つに、小中学校の全学年、全教科における言語活動の促進が述べられ、その後、現行の学習指導要領（平成 29 年告示）においては「主体的で対話的な深い学び」が推進されて、現在の日本の義務教育課程では対話が重視される途上にある。

美術・図画工作科においてこの課題は、表現活動と鑑賞活動共に、交流の時間を持たせることで、自分や友達の表現について話し合ったり、一つの作品を皆で共有し、語り合いながら鑑賞を深めたりする方法で定着し始めている。また、美術館や博物館のような社会教育的な機関においても、現在は他者と話し合うことが容認されたり、積極的に話し合う機会が導入されつつある。

本設問では、こうした現状を踏まえて、受験生が教師の立場になったとき、子ども達と作品の出会いの場をどのように考案し、設定することができるかを問うている。またその契機として、自分自身が美術作品を見て感動したり、衝撃を受けたりした経験から論述させ、日頃からの美術作品との触れ合い方も見取りたい。

令和8年度 京都教育大学教育学部学校推薦型選抜

小論文（体育領域専攻）

【出題の意図】

設問1（配点100点）

この課題は、eスポーツと伝統的なスポーツの関係を通して、現代社会の変化を理解し、自分の意見を論理的・多面的に述べる力を問うものである。特に、子どもや社会にとって望ましいスポーツのあり方を考える力を重視している。